

## 神戸市立高等学校教職員組合との交渉議事録

1. 日時：令和5年8月9日（水）16：30～17：00
2. 場所：教育委員会会議室
3. 出席者：  
（市）教育委員会事務局総務部教職員課長、労務制度担当係長、他1名  
（組合）執行委員長、副執行委員長2名、書記長、他4名
4. 議題：2024年度要求書の提出について
5. 発言内容：

～要求書の手渡し～（組合から市へ）

（組）日頃より神戸市教育の充実と発展に御尽力されていることに心より敬意を表します。

さて、街中がコロナ禍前の様子に戻りつつある中で、学校園でも活気ある子どもたちの声が聞こえるようになりました。本年度も市高組合員のさまざまな要求を今日お渡しした冊子にまとめました。

学校現場においてわたしたち教職員は、ひとりひとりの子ども・生徒・学生の心身ともに健やかな人間的成長を願い、社会に出て活躍できる力を身につけさせるために様々なとりくみをすすめています。教育行政の大事な役割はこのような現場の運営をバックアップして、さらに教育条件の整備に努めることにあると思います。教育の自主性と独立性を守るために、神戸市教育委員会が子どもたちの目線、学校現場の目線で奮闘されることをお願いしたいと思います。

子どもたちの「学びたい」という気持ちに答えられる、質の高い学習を実現する施設設備の充実した魅力ある学校園づくりが強く求められています。一方、教育現場では慢性的な多忙化で健康被害が深刻な状況にあります。教職員は言うまでもなく身体が資本です。その仕事は簡単に代替できるものではありません。教職員の健康と安全を守り、活力をもって働くことのできる職場環境の実現を強く求めます。今年度より定年が引上げになりましたが、教職員の勤務の実情を踏まえることが重要です。勤務労働条件について組合としっかり協議することをお願いします。

兵庫県教育委員会が「県立高等学校教育改革第三次実施計画」のもとに県立普通科高校の再編統合がすすめられようとしています。神戸市でも、市立高校の今後のあり方について、また市立幼稚園の今後のあり方についても一定のまとめがなされました。今後のスムーズに情報を提供し、そして現場教職員と協議を尽くして意見を吸い上げていただき、幼児教育がさらに発展、充実するように、関係部局に働きかけていただくようお願いしたいと思います。また市立幼稚園の在り方についての議論にも注目していま

す。神戸市がこれまで培ってきた、市立高校、幼稚園の特色ある教育を市の財産として、さらに継続そして充実させるようお願いしたいと思います。

厳しい財政状況の中ではありますが、生徒や保護者の実態も踏まえた学校の現場の切実な要求ですので、実現に向けて最大限の努力をするよう強くお願いします。

(組) ただいま委員長よりお渡しした要求書ですが、全体要求と専門部および各分会からの個別要求の形式でまとめております。

すべての要求の根幹をなす教育委員会と神戸市高との関係についてお話をさせていただきたいと思います。要求書に書かれてあるすべての項目については例年通りご検討いただき丁寧な回答をよろしくお願いいいたします。また、私のお話の後、本日出席している執行委員より、分会要求の詳細をお話しさせていただく予定です。

昨今の社会情勢の目まぐるしい変化に対応すべく、教育委員会の皆様方におかれましては、様々な教育施策において熟考を重ね、私たちに提示してくださっていることに対して誠に感謝申し上げます。

先日実施されました、高等学校教育課程研究協議会は、国の施策である教員免許更新制度の廃止に伴う神戸市の研修制度として実施されたわけですが、私たちの周りからも「良い内容であり、今後の職務に役に立つ研修であった」との声を特に若年層の教員から多く聞いております。

このような教育委員会の施策、例えば学校園の再編計画や人事評価制度、人事異動制度、新研修制度などに対しては、管理運営事項ではありますが現場に対し、もう少し丁寧な説明をして頂きたいと思っております。特に、様々な内容に対して現場で仕事をしている教員の意見を全く聞くことなく、制度の概要が提示されることに今後の神戸市の公教育を担ううえで、神戸市民から期待されている責務の遂行と未来を見据えた継続性に大きな不安を感じます。実際、現場の声を聴くことなく様々な施策を遂行している近隣の公共団体からは多く優秀な人財が他都市に流失しています。

再度お願いを申し上げます。教育委員会の方々が本当に熟考を重ねて頂いている施策をさらに良い施策にするために、もっと現場の教職員との意見交流や意見の吸い上げを実施して頂く場や方法を考えて頂きたいと思っております。

本来、現場では校園長が全教職員からの意見を吸い上げることはしてくれていると信じています。しかし、管理職の激務を間近で拝見する限り手が回っていないのが現状ではないでしょうか。

子どもの権利条約の批准に伴い神戸市でも「校則の見つめなおし」など教職員は学校をより良い場にするために、児童・生徒・保護者をはじめ学校内のすべての人の意見を取り入れています。また、取り入れるようにとの、通達も教育長からありました。特に未来を担う子どもたちを育てるうえで、特に若い教員の成長を促すためにも私たち教職員の意見を積極的に取り入れていただくことと、勤務・労働条件については私たち十分

協議していただくことをお願いしたいと思います。  
どうぞよろしく申し上げます。

(組) 科学技術分会です。まず、実習機器更新予算の継続配当を行ってほしいという項目です。科学技術高校では実習機器は4つの科がありまして、ISO に準拠するなど更新が必要になってきております。また、コンピューター関連についても、工業系で使うものと普通科など一般的なものとは異なる使い方をしますので、工業系独特の更新を、何卒よろしく申し上げます。

次に2番の施設・設備についてですが、今年度 エアコンの大改修に着手していただき、大変感謝しています。20年近く使っている機器になりますので、予算的に厳しい時期ですが電気代のこともあるのではと思います。学校内の道路の補修、体育館の補修とますます更新していただける内容が山積です。どうぞよろしく願いいたします。

(組) 神港橋分会です。1つ目は多機能トイレの改修をあげています。本校は2年生に1名・1年生に1名の身体的にハンディキャップを持った生徒が在籍しています。現状としては2年生の生徒がトイレをする際に教員が抱きかかえながら椅子に座らせるようにしております。トイレの横に手洗い場があるので近くに車いすを付けられません。夏場は非常に熱く、たいへん使いづらい状態です。本校は体の不自由な生徒も受け入れており、今後も入学が予想されるので、改修していただければと存じます。

次にGIGAスクール構想についてです。現在Wi-Fi環境が整っておらず、集会を行うことがあるアリーナ・小体育館・多目的室・柔道場で利用できません。グラウンドでもつながりません。それらの場所を使った授業展開が出来ません。至急対応を願いたい。

また、各階の渡り廊下で落下事故がいつか起こるのではないかと心配しています。開校当初よりずっと懸念されていることであり、毎年分会要求にあげていることです。落下事故が起こってからでは遅いので、ぜひ委員会に視察に来ていただき対策を講じていただきたい。北館3階が避難経路になっていますが、内鍵になっていないので外からしか開けられず避難経路として不備があります。改修をお願いしたい。開校当初、全面土足禁止にしようとの声がありましたが、なかなか下駄箱の場所がなかったりと実際にはできていない現状です。将来的には土足禁止にしたいとの声があり、下駄箱のスペースを確保していただきたい。築50年以上となる栄グラウンドの老朽化に伴う破損箇所が多数あります。新設工事の予算には栄グラウンドの改修も含まれていましたが、建設価格の高騰により頓挫しています。バックネットのコンクリートのひび割れ、柱の腐食、フェンスの破損・腐食等々、数多くの修繕必要箇所があります。現在は保護者や顧問の熱意と情熱によりかろうじて維持している状態です。至急改修をお願いしたい。

(組) 神戸工科分会要求につきましては6つの項目が上がっていますが、全体要求にも重なるところがあるので、神戸工科分会から特に強く要望したい2つについてお話させていただきます。

ひとつめです。定時制に通う少子化の影響で近年の入学者は減少傾向にありましたが、今年度は昨年比べて増加しました。しかし、今年度の入学生徒も入学してくるまでに様々な背景を持っており、中学校を不登校でほとんど登校できなかった生徒の割合が毎年増えており、学習支援や学校生活において配慮を要する生徒が数多くいます。本校では始業前の補習、そして授業ではチームティーチングできめ細やかな指導を行っています。また日本語での意思疎通が難しい生徒数も昨年より増加しています。これも始業前の日本語講座の実施や、通訳ボランティアが授業でのサポートでカバーをしていますが、ボランティアの人数や来校する機会が少なく、特に工業高校の実習では工作機械の操作など、危険を伴うために、工業科教員を複数配置して事故が起こらないように配慮をしています。関わっている職員の負担は数年前とは明らかに増加しています。職員の負担を少しでも減らし、定時制高校を必要としている生徒たちが安全に安心して学べる教育条件整備をよろしく願います。

ふたつめは、本校の1970年初頭から1980年中頃に導入された老朽化した旋盤15台の更新についてです。丁寧にメンテナンスを行い、使っていますが、故障することも多く、いつ動かなくなってもおかしくない状況です。工作機械の更新については「ものづくり実習機器整備事業」で、本校と科学技術高校の工作機械の更新を平成27年度から令和6年度まで、年3000万円の予算で10年間継続している事業ですが、この間の世界情勢や経済状況の変化により、原材料や輸送費などで物価高騰が続き、消費税も事業当初5%であったものが10%まで上昇しました。その結果、工作機械の価格も高騰し、今後も上昇する傾向にあります。当初は15台更新できるはずだったものが非常に厳しい状態です。今年度3台更新する計画ですが、来年の最終年度では、今年度と同様に3台を更新したいと考えています。この事業終了後も、機械の更新に見合う予算を要求していただきたいと思います。

(組) 楠分会です。昨年度は大雨による雨漏り被害に多岐にわたりご対応いただきありがとうございました。

本年度は要求書の①にあげました事項について詳しく説明させていただきます。現在1年～4年までで10名を超える外国籍で、日本語の理解が難しい生徒が存在しております。授業中におけるTTでの対応だけでなく、授業前における識字や日本語指導を実施しています。しかし、授業前には仕事等の都合で参加できない生徒も存在し、目に見えて効果が上がるころまでは到達しておらず、今後も時間や指導人員の確保が必要な状況です。

また、学齢生徒のなかには家庭環境の激変や家庭内での本人と家族の不調和等により、関係機関との連携が欠かせない者が各学年で存在しており、高等学校ではあまり開かれることのない関係機関を交えてのケース会議もしばしば開催している状況です。

このように、本務以外にも非常に時間及び人員がかかる状況であることをご理解いただき、現状の教育水準が維持できるようなご配慮をお願いしたい。

(組) 市盲分会です。IIF3、KICS について、視覚障害教員に対してさまざまな配慮して頂いていることに感謝をしつつも、なお、一方では業務が円滑に行えないという現状があることも知って頂きたい。

1つ目は、学習系、校務系、校務外系と3つの系を連携しながらの作業は、視覚障害ソフトを抱えるPCでは、動作が非常に重くなり、事務処理がスムーズにできない状態です。既に、このことへの対応として、校務専用機を各1台配給して頂いている。それによって、ある程度は改善したものの、常時2台のPCをデスク上に置くことは、窮屈な作業環境であることは否めないです。近年、障害者雇用が拡大する中で、さまざまな障害に対応する補助具を設置するケースが多く、当然に設置するためのスペースを要します。そのスペース確保は、障害者雇用の観点からはごく一般的な合理的配慮と捉えられます。対処法としては(1) 仮装デスクトップで視覚障害者用ソフトが十分な速さで使用できるパソコン1台にする。(2) 広さ確保のためにサブテーブルを置く。といったことが考えられます。しかし、「情報漏洩防止」の観点から「三つの系」にしていることそのものが作業効率を低下させている要因ではないでしょうか。

2つ目は校務系において点字データの添付メールが弾かれてしまいます。業務上、関係機関等と点字データを添付したメールを送受信することは多いのですが、校務系でそれらを受信した際、点字データ添付ファイルはすべて弾かれてしまいます。対処法としては、校務外系から受信し、それを校務系に系間連携して編集作業をしなければならず、これらの作業には、かなりの労力と時間を要することになります。視覚障害用メールとして最も有用なマイメールは校務系では使えますが、校務外ではそれが使えず、慣れないアウトLOOKでの作業となることも、作業を困難にする要因です。要望としては除外データから点字データを外し、校務系に導入されているマイメールで送受信できるようにしていただきたい。

3つ目は視覚障害者用ソフトのアップデートが、しばしばありますが、これが、個人ではできず、NTTに連絡をし、時間を調整し、1時間程度PCが使えなくなります。このことも、業務を滞らせる要因です。要望としては(1) 視覚障害者用ソフトについては管理者権限を外し、個人でアップデートできるようにしていただきたい。(2) OSのアップデートとともに遠隔操作で自動的に一斉に行えるようにしていただきたい。といったことが考えられます。以上よろしく申し上げます。